

令和5年度 徳島中学校 学校評価計画

	重点課題	重点目標	活動計画	評価指標
学校経営	地域とともにある学校として、教育活動の充実を図るとともに、生徒や教職員にとって、自己実現のできる学校をめざす。	1. 保護者や地域の人々の意見や要望を大切にしたい学校運営をめざす。	1. 学年だより・ホームページ等による積極的な情報発信とともに、現状に則した学校行事の工夫やラインネット等の積極的活用で、身近で開かれた学校づくりへの理解と連携を深める。	1. 学校から発信する各種たよりや文書等により、保護者に対して十分な情報を伝えることができていると思う保護者が、90%以上いる。(アンケート調査)
		2. 生徒や教職員が自他の存在を認め合い、各自が目標を持ちそれに向けて実践することで学校の活性化を図る。	2. 生徒相互・教職員相互で協力し合い、各自の目標が達成できるよう、主体的に活躍できる場を設定する。	2. 学校において自分の活躍の場があり、仲間と協力できていると感じている生徒・教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)
教科指導	生徒一人一人が「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践をめざす。	1. 教科部会や研修を活用し、生徒の知識及び技能の習得を徹底する。	1. 教科部会で「各教科に関する個別の知識・技能を身につけさせるための手立て」を検討し、実践する。	1. 「授業が分かる」生徒が80%以上、知識・技能を身につけさせる手立てを行った教職員の割合を100%に近づける。(アンケート調査)
		2. 教科部会や研修を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する。	2. 教科部会で「多様な学びの場の効果的な設定」や「生徒の思考を深めるための手立て」を検討し、実践する。	2. 「話し合い活動などを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」生徒が80%以上、生徒の思考を深めるための手立てを行った教職員の割合が90%以上いる。(アンケート調査)
		3. PBS(ポジティブな行動支援)を行い生徒の主体的に学習に取り組む態度を育成する。	3. PBS(ポジティブな行動支援)を行い、生徒を「認め育てる」積極的・肯定的な学習指導を実践する。	3. 「学習課題に対して、主体的に取り組めた」生徒が80%以上、「生徒を『認め育てる』肯定的な学習指導を行った教職員が90%以上いる。(アンケート調査)
人権教育	自他のよさを認め合い、すべての生徒の自立と自己実現のできる人権教育をめざす。	1. さまざまな人権問題の解決に向けて主体的な行動力を育成する。 2. 自分を大切に、自尊感情を育てることで、前向きに生きる態度を養う。	年間指導計画を見直し、授業や体験的活動および行事を充実させる。	1. 自分が大切にされていると感じている生徒が80%以上いる。 2. 相手を尊重した言動ができていてと感じている生徒が80%以上いる。(アンケート調査)
道徳教育	豊かな感性と道徳性の育成をめざす。	人として、ともによりよく生きていこうとする生徒を育成する。	「新しい道徳」を活用し、指導方法や授業形態の工夫改善を図る。	道徳の授業で学んだことを生活に生かしていると思う生徒が80%以上いる。(アンケート調査)
進路指導	自らの生き方を考え、主体的に進路選択をすることができる生徒を育成するための計画的・組織的な進路指導をめざす。	全ての教育活動を通して、一人一人の個性の伸長を図り、自分の将来に対して夢や希望を持ち、目標に向かって努力を続ける生徒を育成する。	1. 「自分の適性や特徴を理解し、将来の目標を考えることができたか」(全学年で実施) 2. 「自分の目標や夢に向かって、継続的に努力を重ねることができたか」(全学年で実施) 3. 「自分の将来を想像し、中学卒業後の進路を考えることができたか」(全学年で実施)	進路選択のための十分な情報収集を行い、将来就きたい職業のイメージを持ち、夢や希望を抱くことができた生徒が70%以上いる。(アンケート調査)
生徒指導	生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立をめざす。いじめの未然防止や早期発見・早期解決に向け取り組む。	1. 集団のルールを守る事の大切さを指導徹底する。	1. 生徒会を中心に服装検査等を実施する。	1. 正しい服装ができる生徒を100%に近づける。(アンケート調査)
		2. あいさつの習慣を定着させる。	2. 教職員や生徒会活動によるあいさつ運動を実践する。	2. 学校や家庭できちんとあいさつができる生徒を100%に近づける。(アンケート調査)
		3. いじめは、生命や人権に関わる絶対に許されない行為であることを認識させる。	3. 「学校生活に関する調査」を、学期に一度実施する。	3. 学校生活が楽しいと答える生徒が70%以上いる。(アンケート調査)
安全指導	生徒自らの生命や安全確保に対する意識の高揚をめざす。	1. 交通ルール・マナーを徹底させる。	1. 生徒会を中心に交通ルールの遵守や交通マナー向上を呼びかけるとともに、教職員による街頭指導を行う。	1. 交通ルールが守れていると答える生徒を100%に近づける。(アンケート調査)
		2. 自然災害や不審者出没などの緊急事態発生時、適切な行動がとれるように指導する。	2. 自然災害や不審者対応についての安全指導と避難訓練を実施する。	2. 避難訓練が状況に合わせてスムーズに行えるようにする。(実施調査)
保健指導	健康の大切さを理解し、自分の健康管理ができることをめざす。	自分自身の健康に対する関心を高める。	自己の健康管理ができる生活習慣を身につけるよう、継続的に指導する。	1. 健康の大切さについて考えることができる生徒を80%以上にする。 2. 毎日、朝食を食べている生徒を90%以上にする。(アンケート調査)
図書館教育	読書環境を整え、読書習慣の促進と定着をめざす。	1. 図書室を積極的に活用させる。	1. 図書委員による掲示物の充実や呼びかけを徹底する。	図書室を利用したことのある生徒が80%以上になる。(アンケート調査)
		2. 学級文庫を充実させる。	2. 図書委員による学級文庫の管理と設営を行う。	学級文庫を利用した生徒が80%以上になる。(アンケート調査)
環境教育	環境美化や環境問題に対する生徒・教職員の意識の向上をめざす。	ゴミが落ちていない美しい環境づくりに努める。	整美委員が定期的に清掃チェックを実施し、美しい環境を育てるようにする。	美しい環境を自ら作ろうとした生徒の割合を100%に近づける。(アンケート調査)
特別支援教育	生徒一人ひとりの理解に努め適切な支援をめざす。	1. 校内支援委員会を開催し、生徒理解に努める。	1. 学年会を中心に各学年の支援を必要とする生徒の把握に努め、校内支援委員会を通じて共通理解を図る。	1. 全教職員が個々の生徒の特性を把握している。(アンケート調査)
		2. 個々の生徒に対する理解を深め、支援の改善を図る。	2. 関係機関や家庭と連携しながら、適宜ケース会議を開き、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成に努める。	2. 教育相談等の記録を残し、個々のケースに応じた適切な支援が計画的に行われる。
		3. 全教職員が特別支援教育に関する理解を深める。	3. 特別支援教育に関する研修(校内研修や総合教育センターでの研修、その他講演会など)に参加し、理解を深める。	3. 全教職員が特別支援教育について正しく理解している。(アンケート調査)